

114. 国語の苦手な子

【問い】 わが家の長男（小5）は、国語が大ののが手で、家庭でもほとんど勉強しません。母親として、どうしたらよいでしょうか。

【答え】 先生から出される宿題は別として、国語の勉強というと、ほとんどの子供は教科書を読むか、漢字の練習をします。5年生ぐらいになりますと、さらに、辞典で語句調べをするようにもなるでしょう。これらは、毎日の授業と直接結びつく大切な勉強ですから、ぜひ、継続してやらせたいものです。

しかし、お母さんだからこそできる国語の勉強のさせ方は、他にないのでしょうか。国語の勉強とは、私たちが日常使っている日本語を生き生きとはたらかせ、言語の感覚を豊かにしていく勉強です。そう考えますと、家庭も国語の勉強のすてきな教室でありお母さん方は、子供たちの大切な国語の先生ということが出来ます。

以下、お母さんだからこそできる国語の、勉強のさせ方のいくつかを述べてみましょう。

①その日のできごとを家族団らんなどで話せる。また夢中で見ていたテレビについて「おもしろそうだったね、どんなお話だったの」と、説明させる。話のつじつまが合わないところを言い直させたりしているうちに、話の仕方やまとめ方が上手になっていくのに気づくでしょう。

②気のおけない来客のとき子供を話の中に入れてやったり、客と2人だけにして、対応の仕方や敬語の使い方など、生きた勉強をさせる。

③いとこやおじ、おばあてに何か用事を作ってやり、手紙やはがきを書かせる。

④読ませたい本を、子供に合わせて、感想や意見を交換し合いながら回し読みする。

このほかお母さんの工夫やアイデアにより、生きた国語の勉強の方法はいくらでも生み出せます。どうぞ、お試し下さい。